

丹後 TANGO 普及センターだより

第32号

(令和3年2月発行)

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波 855
京都府丹後広域振興局農林商工部
丹後農業改良普及センター

電話 (0772)62-4308

FAX (0772)62-5894

丹後普及センター

検索



弥栄会場(8月4日)

シカとイノシシの足跡の見分け方

農業基礎講座で技術支援

8月の2日間、丹後広域振興局の野生鳥獣係から講師を招き、京丹後市弥栄町と宮津市須津で第1回講座(獣害対策講習会)を開催しました。それぞれ23名の出席で、メッシュ柵の補修実習や活発な意見交換が行われました。

12月にはトラクター、刈払機の安全操作と日常点検の講座を開催しました。(1月に開催予定でした第3回「土壌・肥料」「農業経営」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。)



▲須津会場(8月6日):電柵の高さはイノシシの気持ちで

前進する! 丹後農業の担い手たち



〈宮津市〉 うちかた 内方 まこと 誠さん(48)

1ターン就農7年目、地元野菜を供給

「以前は、野菜嫌いだったんですよ」。農業を始められた経緯についてお伺いした時の意外な第一声でした。

就農への第一歩は、大阪の生協にお勤めされていた時の家庭菜園講習会への応募でした。「菜園管理者の支援のおかげもあって、収穫した野菜の美味しさには驚かされました」。続けるうちに農業の楽しさが増し、野菜作りを生業としたいとの思いが強くなったそうです。「家族にその思いを打ち明けたところ、快く背中を押してくれました。ただ、

小学生と年長の娘2人は学校のお友達と離れるのはちょっぴり寂しそうでしたが」。

2014年、40歳すぎで宮津市での農業人生が始まりました。発見の毎日で、とても新鮮で充実した日々を送りました。地域の先輩農業者の指導や関係機関の支援を受けながら、現在就農7年目。地元スーパー、宮津道の駅「まごころ市」、学校給食等を中心に野菜を出荷されています。

年々高齢化で担い手が減少する中、農地を守るためにも規模や販路の拡大に意欲的です。「宮津市では少しずつですが、I・Uターンの仲間が増えつつあります。ぜひ連携して、地域の農業を考えていきたい」と熱く語る内方さんでした。



〈京丹後市〉 たかはし 高橋 ほうひ 鵬飛さん(50)

「やると決めたらとことん考え、行動する」がモットー

就農3年目の高橋鵬飛さんは、現在京丹後市大宮町の国営開発農地約11haで、ネギ、カボチャ、キャベツ、ブロッコリー、ダイコン…と業務加工用野菜を中心に約20種類の野菜を栽培されています。

父母が農業をしていたため幼い頃から作物に触れていた高橋さん。本格的に農業を始めたいと思い、2016年丹後農業実践型学舎に入って2年間農業を学びました。就農当初は収穫時期が秋に偏っていたために穫りきれないなど、失敗と苦労がたくさんありました。さらに、コ

ロナ禍の影響で出荷キャンセルが相次ぎ、多額の損失が発生しました。そこで高橋さんは、長い期間連続して出荷できるものは何かと何度も考え、新たな4品目の導入を図ります。最も成功したのはインゲンでした。高橋さんの期待どおり5月から11月まで出荷することができ、単価も上々。収入はコロナ禍以前の状態にまで回復することができました。

「やると決めたらとことん考え、行動する」がモットーの高橋さん。今後も面積の拡大と果樹、花卉など新規品目の導入に挑戦すべく、研究と計画づくりを進めています。

～環境にやさしい農業は土づくりから～



〈伊根町〉 岩井 ^{いわい} 智也 ^{ともや}さん(42)・やすかさん(45)

Uターンで地元へ！ 経営の試行錯誤と転機

岩井智也さん、やすかさんご夫妻は伊根町本庄地域にて、露地ほ場とハウス10棟合わせて30aで、ピーマン、ホウレンソウ、ミズナ、ニンニクを栽培されており、主に市場や卸業者へ出荷しています。

智也さんは兼業農家の子弟ですが、家業は継がず宮津に住みながらトラック運送などの仕事をされていました。しかし、17年前に兄から「戻ってきて農業をしないか」と誘われ、伊根町で農業を始めました。智也さんは「種を蒔いたら自然に育ってそれがお金に変わるなんて楽

な職業だと思っていたが、すぐに考えが甘いと実感した」と当時を振り返られます。就農後の3年は、災害もあり収入がほとんどない状態が続きました。「農業を辞めたいと思った。でも、この人(智也さん)は続けるつもりだったから…」と、やすかさん。

経営の転機は7年前。見学先のピーマン生産を導入しました。「土壌のバランスなどに気を配るようになった。土づくりが葉菜類栽培にも良い影響が及ぶようになった」と智也さん。今やピーマンは経営の柱。「僕のピーマン」という商品名でオリジナル袋を作り、出荷しています。

昨年度からJA京都伊根支部ハウス部会長も任されており、地域の中心的な担い手としても活躍されています。「今後は経営の中に根菜類を増やし、なるべく出荷が途切れないように品目の導入も検討していきたい」と意欲的に話されました。



(左から)瀬川 野菜部長、太田 代表取締役、成毛 副社長

アグリスト
〈与謝野町〉 株式会社 AGRIST(設立1年目)

『株式会社 AGRIST』、誕生

2020年2月に2戸の大型米農家が協同し、株式会社 AGRISTが誕生しました。代表取締役は太田桂史さん(30) 副社長は成毛 一生さん(40)。

それぞれ親から経営を引き継ぎ、担い手として活躍してきました。しかし、今後親からの手伝いがなくなった時の不安がありました。

二人で協力すれば農地集約化や作業の分担もできるだろう…このような思いで株式会社を設立し、実際に仕事の効率が良くなり、精神的な負担も軽減されました。

これまでどおり基幹品目を水稲としながらも、冬の作業を確保するために小麦生産を開始し、野菜部長として瀬川さんを迎えて本格的に野菜栽培も始めました。今年は、水稲40ha、小麦1.2ha、タマネギ、春キャベツ、ハウスでミズナの他、少量多品目の野菜栽培を予定しています。

目標は、野菜を経営の基幹品目に加えること、水稲の品質向上、規模拡大、増収です。大規模であっても妥協せず栽培法にこだわり、有機JAS米にも取り組んでいきたいと抱負を述べられました。

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～

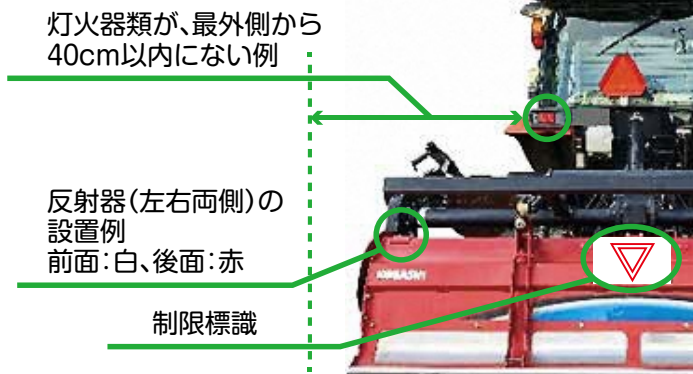
公道走行時の注意点



法改正により作業機を装着したトラクタの公道走行が可能となりました。しかし、主に次の3点が義務づけられました。紙幅上すべてを紹介できませんので、詳しくは農林水産省等のホームページで調べるか、農機販売店等へお問い合わせください。

▶ チェック1 灯火器類*1

- ◎作業機を装着すると灯火器類が見えなくなる場合は、別途灯火器類が外から見えるように設置する。ただし、特定小型特殊自動車*2にはこの義務がありません。
- ◎灯火器類*1の取付位置が、作業機の端から40cm以内でない場合は、作業機の両端に反射器(前面白色、後面赤色)を取り付ける。



▶ チェック2 全幅

特定小型特殊自動車*2が作業機を装着した状態の全幅

- ◎1.7mを超える場合
 - ・本体左側にサイドミラーを、作業機の両端に反射器(前面白色、後面赤色)を設置する。
- ◎2.5mを超える場合
 - ・上記の設置に加え、最外側が分かるよう前面及び後面に外側表示板、反射器、灯火器を設置する。
 - ・道路管理者から通行許可を得る。(農道は許可を得る必要がない。)

▶ チェック3 運転免許

特定小型特殊自動車*2が作業機を装着した状態の寸法が、長さ4.7m以下、幅1.7m以下、高さ2.0m以下であるかどうかを測定する。

- ◎すべてを満たす場合
 - ・小型特殊免許 又は 普通自動車免許が必要です。
- ◎いずれか一つを超える場合
 - ・大型特殊免許(農耕作業用自動車限定 可)が必要です。



*1 灯火器類とは ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ブレーキランプ、バックランプ、ウィンカー、後部反射器

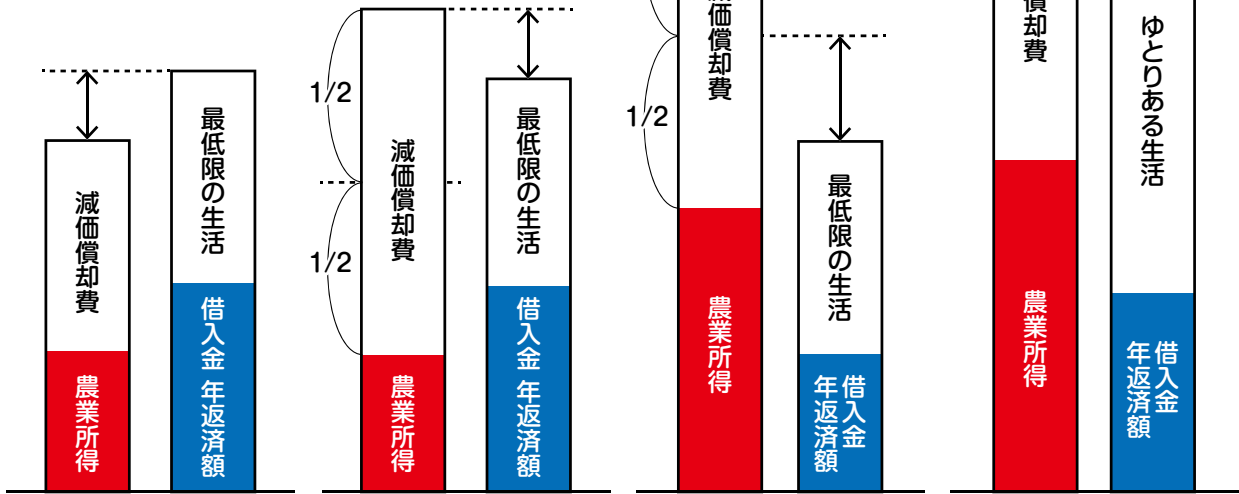
*2 特定小型特殊自動車とは 長さ4.7m以下、幅1.7m以下、高さ2.0m以下、かつ最高時速15km以下



簡易キャッシュフローで 経営状況を判定してみましょう

個人経営の方

下記の農業所得とは、青色申告の方は「青色申告特別控除前」、白色申告の方は「専従者控除前」の農業所得の額です。



レベル1

レベル2

レベル3

レベル4

借金の返済を、農外収入、新たな借入に頼っており、経営が危うい。

生活を切り詰めることで、やっと農業経営を継続できている。農業所得を早急に増大させる。

生活を切り詰め、機械を長く使えば、機械等の更新も自己資金だけで行える。

ゆとりある生活を送ってもなお資金が余る。無理なく機械・施設を更新できる。

手順1 損益計算書より金額を記入

手順2 経営の通帳から引出す生活費の額、借入金の年返済額を記入

減価償却費 ①	万円
農業所得 ②	万円

経営の通帳から引出す生活費	今よりもゆとりある生活 ③	万円
	最低レベルの生活 ④	万円
借入金 年返済額 ⑤		万円

手順3 以下の判定式に当てはめます。

該当レベルに○印

レベル4	優良	$① + ② > ③ + ⑤$	
レベル3	自立	$① \div 2 + ② > ④ + ⑤$	
レベル2	かろうじて自立	$① + ② > ④ + ⑤$	
レベル1	外部依存型	$① + ② < ④ + ⑤$	

手順4 手計算になりますが、一段上のレベルの農業所得②を求めてみてください。

万円

京の米の新品種「京式部」^{きょうしきぶ}誕生

京都府は、激化する米の産地間競争に打ち勝つため、また、地球温暖化でもコシヒカリのような品質低下が起こらないように、ブランド品種「京式部」を開発しました。

「京式部」は、京料理人や米穀商のお米マイスター等の味覚のプロから「香り高く上品な味わいで、食感はほどよい粘りで大きい粒感、外観は白くつやがある」と食味が評価されただけでなく、低い草丈で倒れにくく、高温にも強いなど生産面でも優れた品種です。

「その先の美味しさへ 老舗料亭が認めるお米」をキャッチコピーとし、京料理や京都の和食の逸品として、令和3年産から本格デビューします。まだ種子量が限られており、皆様に作っていただくことはできませんが、徐々に生産量を増やしていく予定としていますので、今後にご期待ください。



農の匠

ひらばやし まもる
平林 衛さん〈京丹後市久美浜町〉

昨年11月農林漁村伝承優秀技能登録者として認定された平林さんは、京都府で唯一、ジャージー種専門の牧場を経営されています。餌の配合や給与量、病気予防など飼養技術を確立され、濃厚で風味ある美味しい牛乳を安定的に生産されています。ジャージー牛乳特有の高脂肪分を活かしたチーズ等の加工乳製品は、複数のコンテストで入賞し、販売店舗には市街や府外の客が訪れるなど地域観光にも貢献しています。

農業士のご紹介



新任

よろしく申し上げます

- 指導農業士 内方 誠さん(宮津市)
- 指導農業士 岩井 龍也さん(伊根町)
- 指導農業士 宮本 浩司さん(与謝野町)
- 青年農業士 山野 賢一郎さん(京丹後市網野町)
- 青年農業士 藤原 典道さん(京丹後市弥栄町)

退任

長い間ありがとうございました

- 指導農業士 野村 拓也さん(京丹後市網野町)
- 女性農業士 岡嶋 とし子さん(京丹後市弥栄町)

丹後地域農業応援隊 個別相談会のご案内

今年度の事業説明会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止いたしました。代わって個別相談会を開催予定です。開催時刻等詳細はQRコードより検索ください。

日にち **3月5日**

場所 丹後広域振興局峰山総合庁舎
(第4会議室)

